

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和6年度3月号

○ 概要

- (1) 令和6年度3月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は7,512億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+2.0%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,481円（伸び率▲0.9%）であった。（→P.1,2）

調剤医療費の内訳は、技術料が2,094億円（伸び率+6.2%）、薬剤料が5,405億円（伸び率+0.4%）、薬剤料のうち、後発医薬品が1,179億円（伸び率+10.9%）であった。（→P.4,5）

- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,158円（伸び率▲3.8%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.75種類（伸び率+0.2%）、27.8日（伸び率+0.8%）、67円（伸び率▲4.8%）であった。（→P.8,9）

- (3) 内服薬の薬剤料4,087億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）▲46億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の777億円（伸び幅+8億円）で、伸び幅が最も高かったのは52 漢方製剤の+34億円（総額165億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	4,087 億円 (▲46 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(777 億円)	21 循環器官用薬 (562 億円)	11 中枢神経系用薬 (541 億円)
0 歳以上 5 歳未満	20.1 億円 (▲0.8 億円)	44 アレルギー用薬 (6.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.6 億円)	61 抗生物質製剤 (2.9 億円)
5 歳以上 15 歳未満	119.1 億円 (▲4.3 億円)	44 アレルギー用薬 (48.1 億円)	11 中枢神経系用薬 (28.7 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(7.7 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,608 億円 (+8 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(301 億円)	11 中枢神経系用薬 (287 億円)	42 腫瘍用薬 (180 億円)
65 歳以上 75 歳未満	796 億円 (▲52 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(184 億円)	42 腫瘍用薬 (141 億円)	21 循環器官用薬 (126 億円)
75 歳以上	1,543 億円 (+2 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(284 億円)	21 循環器官用薬 (261 億円)	42 腫瘍用薬 (214 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,481円（伸び率▲0.9%）で、最も高かったのは北海道（11,521円（伸び率+2.5%））、最も低かったのは佐賀県（8,178円（伸び率+0.7%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは沖縄県（伸び率+2.7%）、最も低かったのは高知県（伸び率▲3.7%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	90.6 %	+5.4 %
薬剤料ベース	21.8 %	+2.1 %
後発品調剤率	83.8 %	+2.5 %
（参考）数量ベース（旧指標）	62.3 %	+2.0 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+10.9 %	+55.9 % (10 歳以上 15 歳未満)	▲0.5 % (70 歳以上 75 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	21.8 %	29.8 % (100 歳以上)	19.5 % (15 歳以上 20 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	90.6 %	93.1 % (100 歳以上)	89.2 % (5 歳以上 10 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	939 億円 (+51 億円)	21 循環器官用薬 (264 億円)	11 中枢神経系用薬 (154 億円)	44 アレルギー用薬 (128 億円)
0 歳以上 5 歳未満	8.3 億円 (+0.4 億円)	44 アレルギー用薬 (4.9 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.1 億円)	62 化学療法剤 (0.5 億円)
5 歳以上 15 歳未満	30.7 億円 (+4.8 億円)	44 アレルギー用薬 (21.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.2 億円)	11 中枢神経系用薬 (2.2 億円)
15 歳以上 65 歳未満	354 億円 (+21 億円)	21 循環器官用薬 (75 億円)	44 アレルギー用薬 (73 億円)	11 中枢神経系用薬 (73 億円)
65 歳以上 75 歳未満	178 億円 (▲1 億円)	21 循環器官用薬 (64 億円)	11 中枢神経系用薬 (22 億円)	23 消化器官用薬 (20 億円)
75 歳以上	368 億円 (+25 億円)	21 循環器官用薬 (124 億円)	11 中枢神経系用薬 (57 億円)	23 消化器官用薬 (51 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,487 円	1,876 円(北海道)	1,230 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+7.8%	+11.3 % (神奈川県)	+1.9 % (沖縄県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	90.6 %	94.1 % (沖縄県)	88.1 % (東京都)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	21.8 %	24.2 % (山梨県)	19.3 % (香川県)
後発医薬品調剤率	83.8 %	86.8 % (福島県)	81.0 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	62.3 %	66.5 % (沖縄県)	59.3 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和6年度3月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。